

# 地域から「活力」を生ま出す



高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できるためには、地域から生ま出す活力が大切です。そのためには、地域の特性を見つめ直し、地域内外からの需要に応じた取り組みや改善を行う必要があります。

## 地域資源を見直し、生かす

市内には、緑豊かな自然に加え、魅力的な歴史・文化的資源が数多くあります。これらの地域資源を生かし、地域の内外・世代間が交流しながら、地域の活性化につながっている活動がいくつもあります。

「交流」というキーワードから地域に活力を生み出している事例を紹介します。

### 宮地区自治振興会

新たな花を咲かせよう

宮地区に1万本のヒマワリ

宮地区自治振興会

宮地区では、水稲以外の付加価値のある特産品を生み出そうと自治振興会で農産物の生産・加工・販売まで行う6次産業化の研修や特産品の試作、獣害に強い作物づくりの検討などに取り組んできました。

昨年、地域おこし協力隊員の発案で休耕田等をヒマワリ畑にするプロジェクト



▲ヒマワリの花に近づくミツバチ

クトを開始。2年目の今年も8月上旬には、宮地区で田んぼ一面にヒマワリが育ちました。

このヒマワリは、景観用だけでなく、ヒマワリから採取した種で「ひまわり油」を搾油します。安全や健康志向にも応えるため、薬品は一切使用せず、ろ過だけで不純物を取り除き、商品化を

### 多羅尾生活改善グループ

当たり前前の暮らしが地域資源

多羅尾生活改善グループは、多羅尾こんにやくや朴葉で包んだ餅、日の菜など郷土の味覚の継承に取り組んでいます。自宅の一角を改装した「おばあちゃんの生きがい工房」で調理され、子どもたちや観光客にも地域の魅力の詰まった料理を紹介しています。

グループの代表である田中史由子さんは、「たなか屋」として自宅を農林漁業体験民宿を行うとともに、多羅尾地区の空き家を活用した宿泊施設にも地元食材を使った食事を提供しています。また、食事の説明に加えて多羅尾の魅力について語るなど観光客との交流も重ねています。



▲笑顔でお話いただいた田中ご夫婦

田中さんは、「都市部から来る観光客は、星が見えたり鳥の声が聞こえたり、ホテルが見えるなど自然に触れ合うことができるほど楽しいことはない」とよく言われます。自然や人々の温かい交流など田舎では当たり前前のことに価値を見出し、自分自身も地域の良さを「見てもらうだけでなく、自分から声をかけ交流し、いろんな方と話すことで自分もパワーをもらっています」と満面の笑みで答えてくれました。



▲田中さんの料理を前に談笑

### 山内エコクラブ

地域の歴史や文化を未来につなぐ山内ふるさと絵屏風

山内エコクラブは、身近なところにありながらも気づいていない地域資源（人・自然・文化）を掘り起こして生かし、元気な地域づくりをめざしています。8月には、大学生を受け入れ、テーマに添って4日間の山内ツアーを実施し、若者の視点から地域の可能性を探る取り組みも行われました。

また、活動のひとつである山内ふるさと絵屏風制作は、「子どもが減少し、高齢者が多くなる地域でできることは、地域の暮らし・文化を次世代につなげていくことではないか」という提案をもとに、先人の知恵や工夫を学びながら地域の記憶を絵屏風という形にし、うと始められました。

絵屏風制作においては、地域のお年



▲模型で作った山内を見て話す人々

完成した絵屏風は、地域学習以外にも高齢者が自力で記憶を思い出すことが認知症予防にも効果があるなど、さまざまな活用が期待されています。



▲絵屏風の前で語る山内地域の方

### 宮地区 ホームページ 開設



宮のんびりほっこり情報満載 滋賀の宮村を探索

めざします。自治振興会長の森田さんは、「地域おこし協力隊からは、地域内で住んでいたら気づかない視点で、新たな特産品としてヒマワリという提案を受けました。また、地域ぐるみで取り組むことでヒマワリという地域共通の話題もできました」と話し、今後も地域ぐるみで協力し、付加価値のある特産品の開発が進められます。



▲宮地区自治振興会 会長 森田さん